

9 明治5年2月21日 菊池長閑宛

拝啓愈御無障御暮被遊奉珍賀候隨而私無異寵在候間乍憚御省慮  
 被(レ)下成奉希候御祖母様エ登龍丸二回下し上候早速下し上へき所  
 延引之段平ニ御高免奉希候南校規則取調差上候間御一覽奉願上  
 候本宿ニても兼而御望ニ候間御覽後御遣之程奉希候諸県之学制  
 も今月中取極候其タ正院ニて論し終て大蔵省へ廻候趣中々容易  
 取極申間敷候横田タ之注文此度下し可申旨存居候新聞紙差上候  
 間御高覽奉希候那珂ニて活計之目的立兼込居候當分東京府貰属  
 被仰付難と申事故俸禄も請取難訳候別条無之時下御厭之程奉祈  
 候頓首

二月廿一日（長閑注記）

御尊父様

香一郎拝

一二之新聞を記十六七日頃白衣ヲ着タル山伏らしき〔物〕者十  
 人計 主上ニ拝顔を得度旨申城ニ入込候付御親兵差止候処無理  
 ニ通候故直ニ炮ボウ致五人被打倒五人ハ被捕候由然ニ倒候人ハ首  
 謀故事実明白ニ分り難〔兼〕(抹消)と申事ニ候文部省ニ同日仏人醉ニ  
 乗參三月之博物會ニ出候色々之物打毀候由実ニ奇々妙々之日ニ  
 候併此等之事御当地ニテ語候ハ、盲目人等取騒可申候事実分り  
 候迄余り御他言不被遊候方ト愚考仕候以上

(別紙)

入学之事

右願之趣相違無御座候間宜敷御聞届奉願候也

干支  
月日

南校御中

何府県印

生徒ノ入学ハ毎年二回必暑中休業ノ後ト孟春開校ノ時ニ於テ  
スヘシ但し校ノ都合ニ依不時ニ入学を許時ハ臨時決議之上校長  
之ヲ公告ス可事

第二

新入生徒ノ年齢ハ十五歳より二十歳迄を限り修業年限五ヶ年以  
上を期し体質壯強ナル者ニ非レハ許サス但し入学ノ節當校医官  
ヲシテ之ヲ検査セシム可事

第三

入学を願候者ハ左之雛形之通身持請状を認メ証人或親族同道  
当日朝九字参校可致事

第四

新ニ入学を願者ハ凡日用公私書翰等一通り通曉セル者ニ非レ  
ハ許サス但し試業法ハ別ニ示ス可事

第五

從來他所ニテ洋学ヲ学タル者入学を願時ハ試業之上相当之階  
級ニ加入ス可其他初学ノ者ハ都テ最下ノ級ニ置可事

第六

転学之事

右ノ者〔兼而〕私能承知仕居候者ニて兼テ心懸ケ厚聊も別  
条無之人物御座候間南校へ入学為仕度奉願候尤入学中一切  
之事件ハ私引請可申依請狀如件

干支  
月日

住所

何府県

何某印

府県厅宛

願申ハ教師教官吟味之上差許モ不苦事

私儀何学為修業六ヶ月之間入学奉願候上ハ御規則之儀決  
テ違背仕間敷候也

千支  
月日

当歳

氏名印

身持請狀

何府県華士卒族或ハ民  
何某兄弟

何学志願

生國

何某

当何歳

生徒一ヶ年内仮令英語を学者仮語ニ転し仮語を学者独逸語ニ  
転ゼン事ヲ願トモ決テ不可許斯ノ如屢転学スルハ学校ニも生  
徒ニも共ニ益無し却テ害ナルか故宜敷一般嚴禁ス可也尤非凡俊  
秀ノ生徒ニテ數年間一学を攻メ随分習熟之上他一学を兼ノコラ

## 欠席免許之事

## 第七

生徒休日外一切欠課不相成ト雖若父母兄弟ノ病変等ニテ不得止欠席不致して不叶時ハ其次第を委く認証人或ハ父兄ヲ届出可事

## 第八

生徒病氣ニテ欠席スル時ハ必医証を副証人或ハ父兄断書可差出事但し入舎生ハ医証而已ニテ直ニ舎中監事ニ届出ヘキ事

## 第九

仮令故アリト雖証人之届ナクシテ欠席スル時ハ不行状之罪ト見做し勤惰名簿中其姓名ノ上ニ不行状ノ標付ヘシ若一ヶ月(抹消)三度ニ及時ハ直ニ退学を可命事

## 日課之事

## 第十

入舎生徒ハ夏春分より秋分迄朝五字半冬ハ六字半ニ起直ニ盥漱更衣し

第七字ニ至て朝餐ス終りて後第九字十五分前迄当日課業之下稽古ヲ為可し其間ハ各机等ニ(依)側ニ在テ決テ他人ノ勉励ヲ不可妨事

## 第十一

入舎生外来生共嚴然九字ニ各其講堂ニ出席ス可若無故五分時

上遅刻スルキハ叱リ十五分時以上ハ朝ハ午前晚ハ午後半日ノ全課ヲ省キ猶不行状之標を附ヘシ第九字(抹消)十二字迄ハ正課时限ナルヲ以各当日之課業を勉ヘシ第十二字ニ午餐し終て一字半マテハ放課ノ時間トス諸生徒(抹消)〔正〕欠課ノ時間ハ狼(マサニ)外出スルヲ許

サス但し校ノ近傍ニ住居し昼食之為十二字タメ一字半迄放課ノ時間退校スルハ格別トス可事

## 第十二

生徒正課時間ハ勿論休暇放課ノ時ト雖学友并ニ外人ニ対し常ニ礼儀を尽し苟も士君子ノ行状を不失サスガ学校ニ入タル者ト世間ニ称譽セラル、様可有殊ニ学校官長及教師教官等ニハ礼讓を尽し之尊敬ス(抹消)〔可事〕者也

## 退学之事

## 第十三

学校官長生徒ニ退学ヲ命ス可ハ行状不宜者度々懶惰ニテ正課ヲ不勤者性質真ニ愚昧ニして実ニ其課ヲ果し難者健康ヲ損したる者は是也若右等ノ事アル時ハ一々其退学次第を認メタル証書を渡シ自分ヲ願て退学スル者ハ正く官長ノ許ヲ受ヘキ事

## 第十四

右等之故ニテ一度退学を被命タル者ハ其一ヶ年間ハ再ヒ入学を不許又一ヶ年ヲ過タルト雖別段許ス可之筋無之てハ決テ許事ナシ

## 試業之事

## 第十五

試業ハ一ヶ年四回毎季ノ末ニ於ス可其内土用休業前之一回ケ年中ノ大試業トス局中諸長官ノ目前ニ於スヘシ都テ生徒等級ノ點陟必此四回ノ試業ノ時ニ於シ狼(マサニ)其中間ニ昇降スルコを不許但し非常ニ優劣タル時ハ此限ニ非ル事

第十六

校中全科ヲ卒業セシ生徒ハ或ハ官費ニ撰レテ之ヲ実地ニ施シ  
或ハ他上等学校ニ転進し又ハ歐米等之大学校ニ留学修業スルヲ  
ヲ得ヘキ才力ノ人トシ文部卿輔丞及其局長ノ調印シタル証書可  
与事

学資之事

第十七

学資一ヶ年凡百両を以足レリトス一ヶ月内食料五両ト定ム月  
始毎ニ証人ガ給養局ニ可納事

休日之事

第十八

天長節節朔日曜日朔日日曜日當レ八十日ヲ休ム土用入ガ三十日十二月廿五日  
より正月十日迄

一学科之等級ハ別ニ示ス可事

右之通当分相定候條堅可相守者也

(長閑注記)

(未書)  
「〔五月五日附ヲ以返書出し〕」